



新潟県石仏の会 中越支部事務局

伊比 卓郎

IBI TAKURO

1948年 柏崎市出身

野山や村々の小道を歩いていると長い年月や風雪にさらされた石仏に出合うことがある。道と道が交差する辻(つじ)や村の境などに建てられた道祖神は、外から入ってくる厄災を防いで旅の道中の安全を守り、五穀豊穡や無病息災、子供の成長を祈願する身近な存在の神様として親しまれてきた。

そんな路傍にたたずむ県内各地の石仏、時には県外の石仏を訪ねる「新潟県石仏の会」が創立30周年を迎える。県全体の事務局を担うのは柏崎市立博物館学芸員の渡邊三四一さん。そして4年前から中越支部の事務局を務めるのが伊比卓郎さんだ。

伊比さんは10年前に友人に誘われ、会の創立20周年を記念して開催された新潟県立歴史博物館の企画展「石仏の力」を見て入会した。石仏の会の活動は春に総会と記念講演会、秋に一泊の県外見学会と石仏フォーラム。そして県内を上・中・下越に分け、各支部が担当する見学会を計3回開催している。

見学会では石仏だけでなく神社や寺、史跡などさまざまな場所を見学。民俗学や郷土史家など専門の立場の会員から貴重な解説を聞き、おいしい昼食をいた

だくという楽しい内容で開催されている。

伊比さんがこれまでの見学会で印象に残っているのは江戸時代から続く日本三大農村歌舞伎の一つ、福島県南会津の桜枝岐歌舞伎。農民の手で传承されている貴重な農村歌舞伎で平家物語の熊谷直実の演目に感動した。「石仏には詳しくないが見学会で爽やかな景色の中、お地藏さんを見ながら歩いていると子供の頃の遠足のように愉快」と話してくれた。

会社員時代には技術職として海外勤務の経験もあり、今も現地の友人とSNSでつながり韓国語や中国語で会話を楽しんでいるという。5年前、石仏の会25周年の際には、伊比さんの通訳で韓国の石仏を見学する記念事業も行ったそうだ。

県内の石仏は全国と同様に江戸中期の1840年から60年に多く建てられ、石には文字が彫られたもの、神仏像が彫られているものなど、さまざまなバリエーションがみられる。中でも多くの人に関心を寄せるのは、一対の男女神が肩を組む肩組像や手を取り合う像、並立して合掌する像といった双体像。県内各地にはまだ調査研究されていない石仏も多く、その土地ならではの信仰から生まれた石神仏を調査していくことも会の大切な役割になっている。

今秋の創立30周年記念事業では、県内の双体道祖神の写真を歴史や地域的特色を紹介しながら県内を巡回する写真展「寄り添う神に誘われて」を開催予定。石仏を巡る大人の遠足と共にぜひ気軽に参加していただきたい。



お問い合わせ

新潟県石仏の会

事務局 ☎0257-22-1941 (渡邊)

